

## 教職課程センター

### 1 理念・目的

#### <現状の説明>

#### (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか

慶應義塾大学では、開放制教員養成の理念のもとで、一般総合大学における教員養成の1つのモデルとして「教職課程センター」を全国に先駆けて設置し、各学部、各研究科と連携しつつセンターが核となって多様な学生、多様な教科、複数のキャンパスをつなぐことを通して実践を展開する「ネットワーク型教員養成」を行っている。

その教員養成に対する理念は慶應義塾の主な教育理念の一つである「独立自尊」に根ざしている。すなわち、独立した個人としての自他の尊厳を尊重するとともに、自らの責任のもとで思考や判断、省察を行い、それに基づいて実践を積み重ねていくような「自律的な教師」を育むことを目的としている。「自律的な教師」として育てていくためには、その学習プロセスで異質な他者との出会いが不可欠である。多種多様な学問分野を擁した学部、研究科が存在し、多数の免許教科の認定を受けている総合大学の本学だからこそ「ネットワーク型システム」を活かして、「自律的な教師」を育むことが可能になると考えている。

#### (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか

教職課程センターの理念と目的については、センターのウェブサイトにおいて公開され、大学構成員のみならず広く社会に公表されている。また、主に学生に対しては、履修案内及び各年度当初に実施される教職ガイダンスにおいて周知されている。

#### (3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか

理念・目的の適切性については、センター所長、副所長、各学部長、各研究科委員長、通信教育部長によって構成される教職課程センター運営委員会及び、専任所員、各学部、各研究科、通信教育部等より選任された学務委員によって構成される学務委員会において、適宜、検証されている。

#### <点検・評価>

##### 効果が上がっている事項

教職課程の運営全体を通じて、「自律的な教師」を育むための具体的な教育活動が展開されている。近年の取り組みとして、文部科学省・平成18(2006)年度及び平成19(2007)年度の教員養成GPに選定された教師教育プロジェクト「理想の教師への航海日誌 教職ログブック 教職適性のプロセス参加型アセスメント」を契機として、学生自身を含めた複数の眼によるアセスメントを可能にするウェブシステム(教職ログブック)が開発され、それを活用したダイナミックな教員養成を行っている。平成23(2011)年度文部科学省教職課程認定大学実地視察においても、教職課程センターの理念・構想の明確化につい

て高い評価を得た。

#### 改善すべき事項

センターの理念である「自律的な教師」を輩出しているかという点について、必ずしも検証されているわけではない。今後、卒業生への調査等を通じて、検証していくことが考えられる。

#### < 将来に向けた発展方策 >

##### 効果が上がっている事項

わが国の教員養成をめぐる状況を踏まえると、センターの理念である「自律的な教師」を育成していくことはますます重要になっていくと考えられる。引き続き、教職課程全体の運営に理念・目的を活かしていく方向で努力を続ける。

#### 改善すべき事項

教職課程センターの理念・目的が社会に対して必ずしも周知されているとは言い難い。センターの理念・目的及びその理念である「自律的な教師」を育成することの重要性について、「公開研究会」等の様々な活動を通じて大学内外に対して示していく。

## 2 教育研究組織

### < 現状の説明 >

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか

教職課程センターのスタッフは、所長、副所長及び専任教員によって編成されている。また、全学規模での「ネットワーク型教員養成」を実現するため、所長、副所長、各学部長、各研究科委員長、通信教育部長によって構成される「運営委員会」及び、専任教員、各学部、各研究科、通信教育部等より選任された「学務委員会」が組織されている。また、国語科、英語科、社会科、数学科・理科、情報科、カリキュラムの計6つの「専門委員会」がある。

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか

教職課程センターには、教育研究組織の適切性を検証するための特別の制度は設けられていない。ただし、上述の「運営委員会」「学務委員会」「専門委員会」において、教職課程センターの理念・目的に基づいた教育や研究のあり方とそれに応じた組織の検討が適宜、行われている。

### < 点検・評価 >

#### 効果が上がっている事項

「運営委員会」は、全学規模での「ネットワーク型教員養成」の中核的な組織であり、教員養成をめぐる諸問題に対する意思決定機関として重要な役割を果たしている。また、教科の高い専門性をもった教員を養成するために「実力テスト」を実施しているが、その

実施は主に「専門委員会」に任されており、長年にわたりその円滑な運営が実現している。

### 3 教員・教員組織

#### <現状の説明>

#### (1) 大学として求める教員像および教員組織の編成方針を明確に定めているか

教員組織については「大学教職課程センター規程」により定められている。すなわち、センターを代表しその業務を統括する所長、所長を補佐する副所長、センターの目的達成のために必要な職務を行う所員（専任所員、嘱託所員、兼担所員、兼任所員）によって構成されている。

#### (2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか

教職課程センターの理念・目的に基づきつつ、教職課程の編成と運営に柔軟に対応するため、関連する研究諸分野を専門とする専任教員を適切に任用し、均衡のとれた教員組織を構成している。

#### (3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか

教員の募集、採用については、教職課程センターの理念・目的及び教育職員免許法に基づく教員養成カリキュラム編成の方針に基づき、適切な基準を設定し、明確な手続きを経て行われている。また、教員の昇格に関する基準と手続きについては「教職課程センター専任教員の任用・昇任に関する内規」に明確に定められ、これに従って適切に実施されている。

#### (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか

FDの一環として、「カリキュラム専門委員会」において、学年度末に「教職に関する科目」の履修者数や合否数、授業目標の到達度等について反省・検討を行い、その検討内容を科目担当者に伝達している。また、教職課程最終段階の学生に対して「教職課程アンケート」を実施し、その記述を分析・検討することにより、教員の資質の向上に努めている。

#### <点検・評価>

##### 効果が上がっている事項

教職課程最終段階の学生を対象として実施する「教職課程アンケート」の結果は、教職課程の履修に対しておおむね満足している現状を示しており、成果の一端があらわれている。また、平成23(2011)年度に実施された文部科学省教職課程認定大学実地視察においては、本学の教職全学的組織として十分機能していると評価された。

##### 改善すべき事項

教職課程の運営に関わる業務の増大に伴って専任教員が多忙化し、教育・研究に対して十分な時間を確保できない現状があり、改善が求められる。また、教職課程センター独自の理念・目的を実現するのみならず、教員養成改革をめぐるわが国の状況に対応するため

に、教員組織を拡充する方向で体制を整備する必要がある。

#### < 将来に向けた発展方策 >

##### 効果が上がっている事項

平成 23 (2011) 年度に実施された文部科学省教職課程認定大学実地視察においては、一般大学における教員養成のモデルとして、教職課程センターの教育理念・目的とともに「少数精鋭」の教員養成を目指した教育体制が充実しているとして評価された。今後も、これまでの教職課程運営の方向性を堅持しつつ、さらなる拡充、深化を目指した教員組織体制を整備していく。

##### 改善すべき事項

教職課程の運営は本質的に国家レベルの教育政策動向に左右されるという性質があり、独自の理念・目的を実現するための努力が求められるばかりでなく、国の施策に対しても的確かつ柔軟に対応する必要が常に生じている。そのため、引き続き、教職課程センターの理念・目的である「自律的な教師」の育成に向けて教員組織を強化するとともに、国の施策にも対応可能な均衡のとれた教育・研究体制を整備するための努力を続けていく。

## 4 教育内容・方法・成果

### 4 - 1 編成実施方針

#### < 現状の説明 >

#### (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか

教育職員免許法に基づきつつ、教職課程センターの理念・目的を反映した教育課程の指針と編成が「教職課程センター履修案内」に具体的に明示されている。

#### (3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか

慶應義塾大学の教職課程の指針と編成については、「教職課程センター履修案内」、「教職課程センター講義要綱」、教職課程センターウェブサイト等によって、教職課程登録学生のみならず大学内外に公表されている。

#### (4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか

慶應義塾大学の教職課程の指針と編成の適切性については、主に教育職員免許法との関連において、「カリキュラム専門委員会」を中心として、適宜、検討が加えられ、その結果がカリキュラム編成に反映されている。

#### < 点検・評価 >

##### 効果が上がっている事項

教職課程センターの理念・目的を反映した教育課程の編成については、専任教員会議を

中心として日常的な議論が積み重ねられており、カリキュラム専門委員会、各教科の専門委員会と連携しながら教育課程の改善に活かされており、効果的なカリキュラムマネジメントが組織的に実現している。

#### 改善すべき事項

上述の通り、教職課程の運営は本質的に国家レベルの教育政策動向に左右されるという性質があり、教職課程の編成を教職課程センターの理念・目的の実現過程と整合性をもたせることが課題である。本センターが掲げる「ネットワーク型教員養成」の理念をより一層、現実化するためにも、教職課程が独自に抱えるこのような困難さについて、大学全体が問題を共有するための努力を続ける必要がある。

#### < 将来に向けた発展方策 >

##### 効果が上がっている事項

慶應義塾大学の教職課程の指針と編成について、引き続き大学内外に公表するとともに、「カリキュラム専門委員会」を中心として、適宜、検証を組織的に行っていく。

#### 改善すべき事項

慶應義塾大学の教職課程の指針と編成が必ずしも大学内外に十分に周知されていないという現状に対して、教職課程センターウェブサイトを充実することなどを通して改善する。なお、現行の教職課程は学部2年生以降の3年間の履修を原則としているが、教職に関心のある学部1年生向けのガイダンスを充実するなど、教職に関心のある学生に対する情報提供が課題となっている。

## 4 - 2 教育課程・教育内容

### < 現状の説明 >

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか

慶應義塾大学の教職課程は適切なカリキュラムを体系的に編成することによって、文部科学省による課程認定(国語科、社会科、地理歴史科、公民科、商業科、英語科、ドイツ語科、フランス語科、中国語科、情報科、数学科、理科、工業科)を受けている。とりわけ、教職適性について履修者が自己評価しつつ自ら学習を進めていくことを重視し、最終年次に履修する教育実習及び教職実践演習を核とするカリキュラムのシーケンスを体系的に整備し、教職履修プロセスの自己評価、実力テストの合格、教科教育法の履修、介護等体験などの多様な学習活動を3年間の履修期間に適切に配置した教育課程を編成している。とりわけ、ウェブ上の学習支援システム「教職ログブック」を活用した教育実践を展開することを通して、教職課程の統合的運用を実現している。また、4キャンパス(三田、日吉、矢上、湘南藤沢)で教職課程の科目が開設されており、所属学部、研究科を問わず自由に科目を履修できるシステムが整備されている。そのことによって、多様な専門分野の学生が交流しながら「教職に関する科目」を履修することが可能になっている。さらに、

公開研究会、講座「社会他者との対話」、現職教員フォーラム等を開催することで、科目の履修にとどまらない学習機会を設けることを通して、履修者が教職に関わる学習を広げ深めることが奨励されている。なお、教職志望の強い学生を対象として、教職免許状の取得に加えて所定の単位を修得することによって修了証が授与される「学校教育学コース」が特設されており、副専攻レベルのカリキュラムが展開されている。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか  
教育職員免許法に基づく「教科に関する科目」、「教職に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」の各カリキュラム領域に関して、各キャンパスに複数の必修科目、多様な選択科目を設置する努力をすることによって、履修者に必要不可欠な学習を保障するとともに自らの関心を活かした履修計画を立てることが可能になるような条件を整えている。また、「教科又は教職に関する科目」として司書教諭科目を設置することによって、教科の一種免許状に加えて司書教諭免許状をあわせて取得することが可能になっている。

#### < 点検・評価 >

##### 果が上がっている事項

教職課程センターが組織し、運営する教育課程によって、教職に向けた履修者の自覚を促し、履修者自身が自らの判断で適切な学習活動を進めていったり教職適性を自己評価することが可能になり「少数精鋭」の教員養成が実現している。また、ウェブ上の学習支援システム「教職ログブック」の運用によって、時間や空間を越えた相互交流的な学習活動を促すことが可能になっている。以上の点については、文部科学省によって実施された平成 23 (2011) 年度教職課程認定大学実地視察においても高く評価された。

##### 改善すべき事項

教職課程の科目が開設されている 4 キャンパス (三田、日吉、矢上、湘南藤沢) の設置科目について多様性を確保しつつ履修者のニーズや人数に応じてバランスに配慮しながら適切に開設することが課題である。

#### < 将来に向けた発展方策 >

##### 効果が上がっている事項

引き続き、教職課程センターが掲げる教育理念である「自律的な教師」を育むために必要なカリキュラム編成を行っていく。

##### 改善すべき事項

国の教員養成政策に対応するために、修士レベルの専修免許状の教職課程について、とりわけ「教職に関する科目」という観点から検討を始めることが課題である。また、教員養成段階のみならず、採用、現職研修を含めたトータルな教師教育のあり方について具体的に検討していくことも課題の 1 つであろう。教職課程センターの理念・目的を実現する方向に向けて、港区教育委員会、東京都教育委員会、横浜市教育委員会、神奈川県教育委

員会、東京私立中学高等学校協会等との連携を模索しながら、教師教育の体系的、統合的な独自のカリキュラムの編成に向けた検討を進めていく必要がある。

#### 4 - 3 教育方法

##### <現状の説明>

##### (1) 教育方法および学習指導は適切か

教育実習基礎、教職実践演習、教科教育法等の基幹科目において、クラス分けを行い少人数指導を実現している。講義形式のみならず、ゼミナール形式の科目も多く設置され、上述の「教職ログブック」を活用した多様で相互交流的な学習形態が実現している。とりわけ、教育実習基礎（教育実習事前・事後指導）においては、学生が自分自身の目標を設定し、具体的な方途を考えるとともに、実行のプロセスと成果について自己評価を行うような過程を重視し、レポート提出、講義時間中の少人数での討論・意見交換、「教職ログブック」上でのレポート相互閲覧と意見交換、担当教員からの指導などが統合的に機能するような学習形態が実現している。学習指導に関しては、各キャンパスにおいてオフィスアワーが設けられており、専任教員全員による個別相談・指導の体制が整備されている。また、学習指導に関しても「教職ログブック」が活用され、個別指導のプロセスが個別に記録され、その情報が指導に活かされている。

##### (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか

各担当者による講義計画に基づいてシラバスが毎年改訂されて講義要項等を通じて履修者に開示され、それらに即した教育活動が適切かつ柔軟に展開されている。

##### (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか

各担当者によって作成されたシラバスに評価基準が原則的に明記され履修者にはそれらが周知されるとともに、適切に成績評価、単位認定が行われている。

##### (4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結び付けているか

各年度末に、カリキュラム専門委員会が中心となり、「教職課程アンケート」が教職課程最終年次生を対象に実施され、その結果が検討されている。また、その検討結果を、次年度以降の具体的なカリキュラム改善に活かすための努力がなされている。

##### <点検・評価>

##### 効果が上がっている事項

ともすると受身になりがちな大学の典型的な学習形態に対して、教職課程センターでは多様な学習機会を設けるとともに、少人数による教育実習などの指導、「教職ログブック」の活用等の工夫を行い、学生自身が自律的に学習に取り組む努力を続けてきた。その結果、教育実習校の学生評価もおおむね高く、「少数精鋭」の教員養成が実現している。教育方法、学習指導上の取り組みについても、「教職ログブック」を十分活用し充実した指導が行われ

ているとして高い評価を得た。

#### 改善すべき事項

教職課程センターが目指す理念である「自律的な教師」を育むためには、少人数教育を推進し、多様な学習機会を保障することが必要不可欠である。上述の教職課程センターによる独自の教育実践は、必ずしも教職課程全体の取り組みになってはいない。また、修士課程レベルの教員養成の教育方法上の検討も具体的な課題である。以上のことを踏まえ、今後、教員組織の拡充やカリキュラムの一層の改善が求められている。

#### < 将来に向けた発展方策 >

##### 効果が上がっている事項

教職課程センターの教育方法上の取り組みの特徴である「教職ログブック」についてさらに発展的に活用できるように検討を進め、具体的な実践を展開していく。

#### 改善すべき事項

今後も「教職課程アンケート」等を参考に教育方法の改善に取り組んでいく。

### 4 - 4 成果

#### < 現状の説明 >

##### (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか

「自律的な教師」を育むという教職課程センターの理念・目的が教員養成段階で実現しているかについて厳密に検証することは困難であるが、外部評価情報である教育実習校による学生の評価によれば、教師としての資質、能力はおおむね高いと評価され、毎年、一定数の教員を輩出している。

#### < 点検・評価 >

##### 効果が上がっている事項

上述の「教職ログブック」の積極的な活用によって、相互コミュニケーションを通じた協同的な学習活動が行われ、教育についての多面的な思考や認識の深化が成果としてあらわれている。

#### 改善すべき事項

教職志望の強い学生を対象とした「学校教育学コース」の履修生、修了生の数は必ずしも多くない。潜在的には教職を進路の第一志望とする学生は多いと考えられるので、具体的な対応策が必要である。

#### < 将来に向けた発展方策 >

##### 効果が上がっている事項

教職課程センターが組織する「ネットワーク型教員養成」は一般大学における教員養成



のモデルである。今後も、各学部、各研究科と連携しながら、教育内容、教育方法という観点からこのモデルとそれに基づく教育活動をさらに充実、発展させていく。

#### 善すべき事項

平成 23 (2011) 年度文部科学省教職課程認定大学実地視察において、教職課程センターによる「少数精鋭」の教員養成は高く評価されたが、質のみならず量的な観点からもより多くの教員を輩出する努力を続ける。